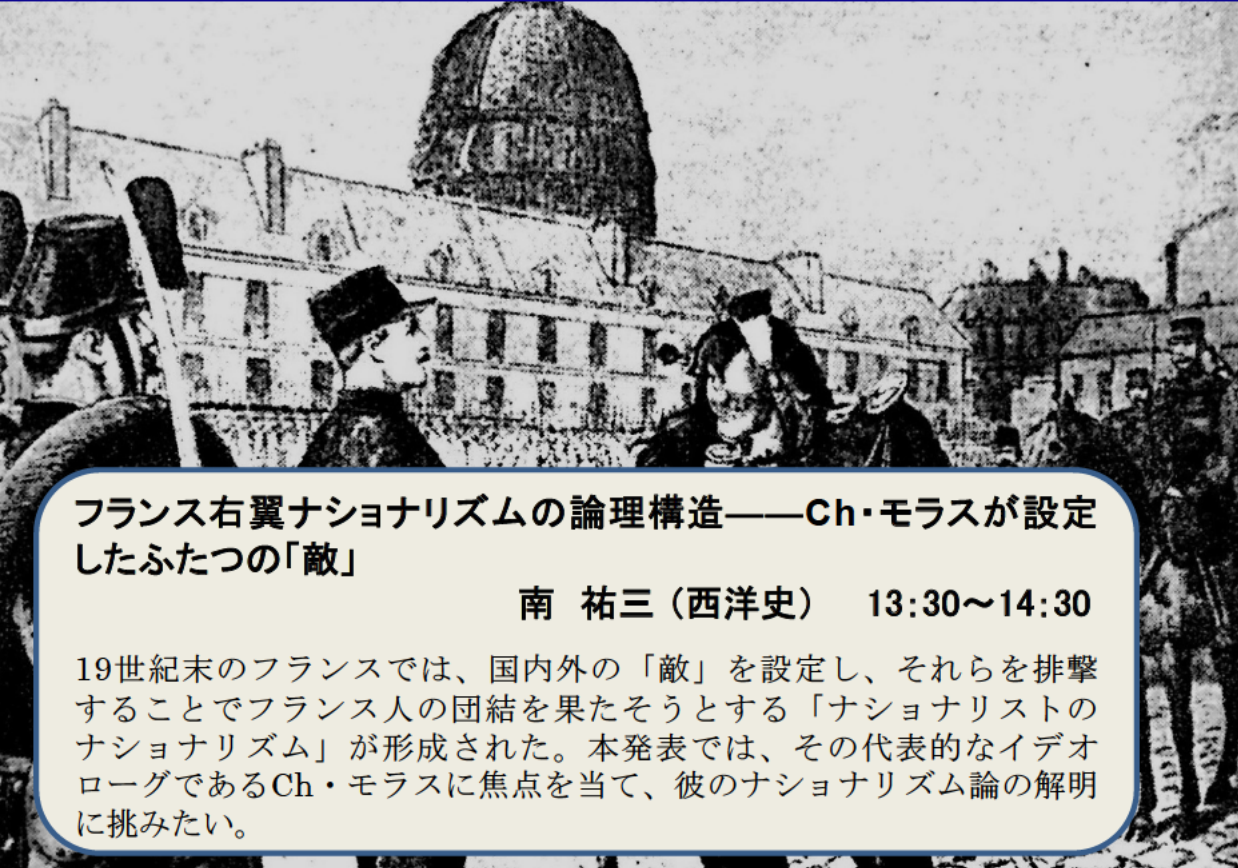


第9回「人文知」コレギウム

一般の方の聴講歓迎・事前申し込み不要・無料



フランス右翼ナショナリズムの論理構造——Ch・モラスが設定したふたつの「敵」

南 祐三（西洋史） 13:30～14:30

19世紀末のフランスでは、国内外の「敵」を設定し、それらを排撃することでフランス人の団結を果たそうとする「ナショナリストのナショナリズム」が形成された。本発表では、その代表的なイデオログであるCh・モラスに焦点を当て、彼のナショナリズム論の解明に挑みたい。

Birmingham Museum of Art



宇治十帖前半とアンドレ・ジッド『狭き門』

田村俊介（日本文学） 14:30～15:30

宇治十帖前半と『狭き門』はストーリーが酷似している（島津久基氏）。作品の主題に普遍性があるからだろう。両者の類似性をOeuvres complètes d'André Gide (NRF社, 1932-1939年)所収本で確かめつつ、宇治十帖前半と『狭き門』の女主人公の性格の違いも指摘したい。

フランスと日本
それぞれの過去から学ぶこと

2018年9月5日(水)13:30～15:30
富山大学人文学部1階大会議室